

働く魅力を伝えたい!

働くことの魅力を伝えよう

近年の日本社会を経済や雇用の観点からみると、情報化の進展、産業構造の変化、就業形態の多様化、消費者ニーズの多様化などが特徴であると分析されています※1。

若者と「職業・仕事・働くこと」をめぐる、就職難、若年者の失業、フリーターの増加、資格取得、キャリアデザイン、様々な問題状況や課題があります。

2004年版「労働経済の分析」(いわゆる「労働経済白書」)によると、2003年、アルバイトやパートで生計を立てる若年層、いわゆるフリーター※2の数は217万人、さらに、卒業後進学せず、未婚で、家事をせず、就労もしない「無業者」※3は同年52万人(前年比4万人増)。いずれも増加の傾向にあり、若年層労働者の課題であるとされています。また、東京都教育委員会が都立高校生のインターンシップを推進する背景には、進路が決まらないまま卒業する生徒の増加や、卒業後の早期の離職率が上昇していることなどがあげられています。若者たちは働く意欲をなくしてしまったのでしょうか?働く動機がなくなっているのでしょうか?

…その分析は研究者や専門家に任せるとして、ここでは、そうした状況の中で、次世代を担う子どもや若者たちに対して、何を伝えるべきか?「働く」動機をどのように持たせることができるのか?ということについて考えてみます。

子どもにとっての「働く体験」

宮崎駿監督のアニメ作品「千と千尋の神隠し」は10歳の少女・千尋が物語の主人公です。最初に登場した時、千尋はヒョロヒョロの手足で、やる気なさそうで、ブータれたつまらなそうな表情の女の子でした。そんな千尋は、トンネルの向こうの不思議な町でブタにされた両親を助け出すために、**「ここで働かせてください。」**…従業員たちと寝起きを共にして、作業着にたすき掛けでフロ掃除をしたりボイラーに燃料をくべたり、先輩や職人に叱られたり励まされたりしながら懸命に働きます。大好きな人と両親を助けて、最後に、雇用主・湯婆々にペコリと頭を下げて**「お世話になりました。」**とあいさつする時の千尋は、登場した時とは別人のように背筋がピンと伸びて、凛々しい雰囲気すら漂っています。

大人たちと一緒に働き、任されたことを責任を持ってやり通し、自分で決めて誰かのために勇気を出して行動して、千尋はきっと、教室で机に座っているだけでは身につかない**「社会」**の作法を学んで、自分もやればできる!と、ちょっとだけ自信をつけて逞しくなったのです。

お金を稼ぐ目的ではなくても「働くこと」は子どもたちにとってちょっとした冒険で、その冒険をくりぬけて逞しくなり、世界が広がります。これは子どもがみんな持っている「底力」で、どの子どもも真剣になる機会があれば、きっとその力を発揮するでしょう。そして、やがて大人になったとき、働くことを肯定的に捉えることができるでしょう。

子どもたちが「働く」機会を作りましょう。真剣になる機会を作りましょう。



都内食品工場での職業体験
(杉並区立天沼中学校
写真提供:NPOスクール・アドバイス・ネットワーク)

若者にとっての「仕事・職業・就労」

さて、子どもにとって働くことは、体験を通していろいろなことを身につけられる一つの体験でよいのですが、青年層にとっては「将来設計」「自立」という、より現実的な問題です。冒頭にあげたような状況の中で、若者たちは、人生の将来設計を描き、生活力をつけ、自立していかなくてはなりません。働く意欲の乏しさや生活習慣に問題がある場合なども指摘されていますが、多様な職業体験・社会体験によって自分の適性や生き方をよくみつめて、職業を選択し、社会人としてキャリアを積み重ねていくことが、社会人としての自立のために必要なことです。

また、働くことにおいては自己実現も大きな要素です。近年の調査によると若年層の「理想の仕事」観では「やりがい志向」が強くなっています※1。就職やキャリアアップを、単に収入を得るためだけでなく、やりがい・生きがいにつなげることを志向しているのです。そのためにも、仕事を選ぶための体験が重要になります。先述の白書でも「若年者が働くことの接点を広げ、働くことの意義や楽しさ、充実感を実感できるようにしていくことが大切である」としています。

例えば高校生のインターンシップ※4やデュアルシステム※5などで就労を体験することも一つの方法です。

またボランティア活動等の社会活動でもよいでしょう。自分に合う方法で、自分の生き方や働き方を探していくことが、実は、この社会の次の時代を創っていく原動力になるのです。

※1「労働経済の分析」(「労働経済白書」平成16(2004)年9月・厚生労働省)による分析。

※2「フリーター」:15歳~34歳、卒業生であって、女性については未婚の者とし、さらに①現在就業している者については勤め先における呼称が「アルバイト」又は「パート」である雇用者で、②現在無業者については家事も通学もしておらず「アルバイト・パート」の仕事を希望する者(上記白書による定義)。定職に就かずアルバイトで生計を立てる人。

※3「無業者」:非労働力人口のうち、15歳~34歳、卒業生、未婚であって、家事・通学をしていない者(上記白書による定義と集計)。2004年、玄田有史氏(東京大学社会科学研究所助教授)により紹介された「ニート」(NEET=Not in Education, Employment, or Training)という呼称で呼ばれることも。NEETは、1990年代末、英国の労働政策用語。